

# 参考資料－１ 中活における目標達成に向けた事業展開の考え方

## 歩いて楽しい 回遊性の高いまち

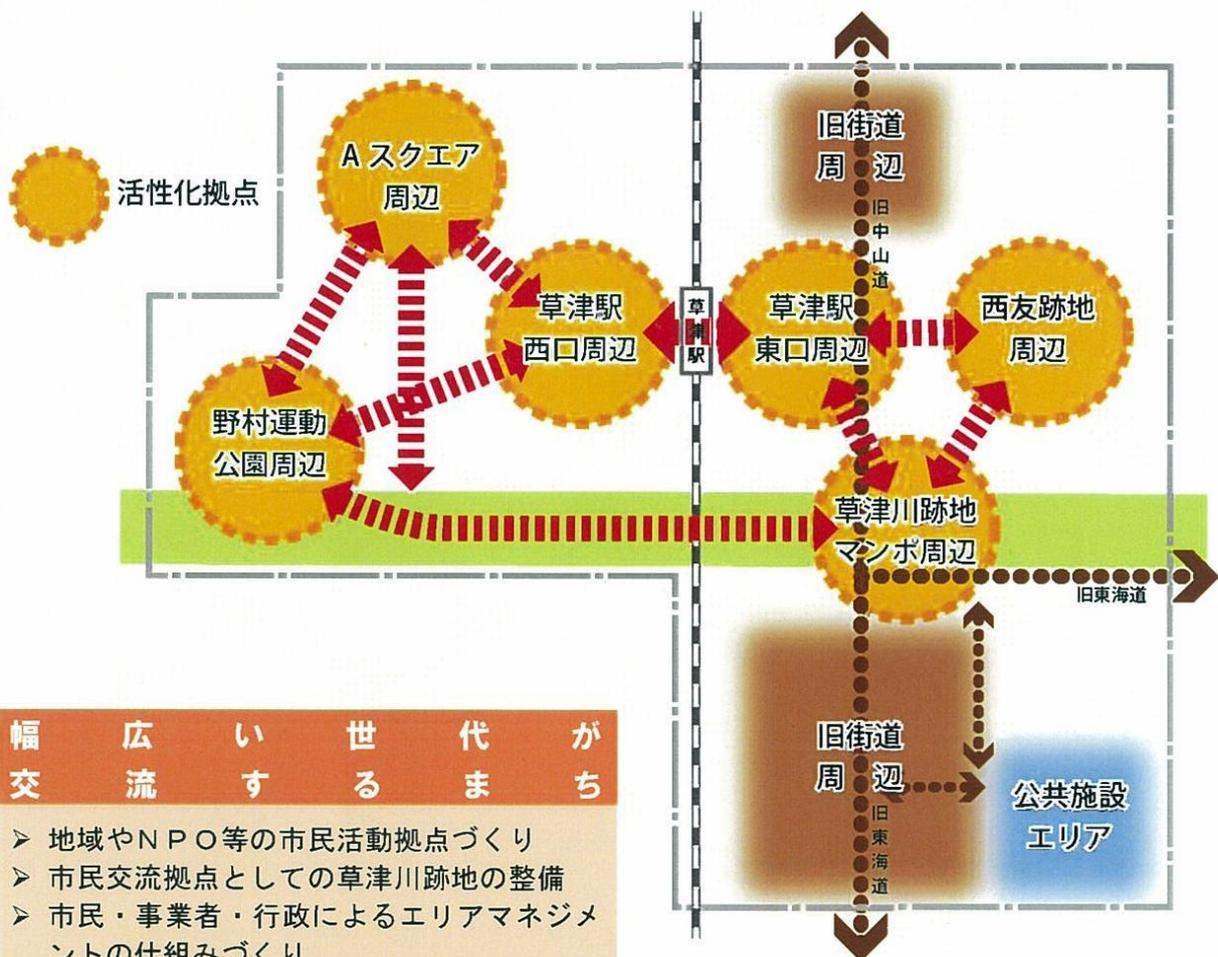
- 立地を活かした集客拠点整備
- 草津川跡地の整備
- 歴史的な街並み整備
- 通りの特徴を活かした歩行空間整備
- イベント情報等の情報発信

など

## 個性的で魅力のある 店舗が集積するまち

- 駅前の情報発信機能の強化
- 低未利用地等を活かした商業店舗整備
- 空き店舗等を活用した魅力店舗の誘致
- 歴史的な街並みの再生と魅力店舗の誘致

など



## 幅広い世代が 交流するまち

- 地域やNPO等の市民活動拠点づくり
- 市民交流拠点としての草津川跡地の整備
- 市民・事業者・行政によるエリアマネジメントの仕組みづくり
- 中心市街地の交通利便性の強化

など



## 参考資料－3 芸術文化機能に係る利用者ニーズ

(1) 草津市 21 世紀文化芸術推進協議会役員会（平成 24 年度第 4 回） 議事録抜粋

H24.10.17

### 草津市の文化芸術の振興方策、施設整備の方向性についての意見交換

草津市生涯学習課（本検討委員会事務局）より、創造館、三ツ池の現状、文化芸術機能等検討委員会を設置し検討を行うことを説明した上で、文化芸術に関わる人物や団体と、「何が必要か、今後どう活用していけば市の文化芸術の発展につながるか」について意見交換を行った。

#### ■合唱連盟・吹奏楽連盟との意見交換

##### （草津市における音楽の練習場所の現状）

- ・草津市には日曜日に練習する場所がない。グランドピアノが設置されているのはコミュニティ支援センターのみで取り合いになっている。他市に練習に行くこともある。
- ・公民館は、日曜日が休館日となったため、近年利用できない。
- ・多数での利用や窓を開けての練習は近隣に迷惑。気兼ねなく練習できる場がない。
- ・アマカホールやさきらのリハーサル室は個人の練習の場としてほぼ毎日埋まっている。
- ・個人練習の場所がないのでカラオケボックスを利用して練習している現状もある。
- ・現在は利用できる施設の選択肢がないため、練習をあきらめている傾向にある。

##### （整備の方向性について）

- ・当初の三ツ池の構想では、ホールの客席数もアマカホールと変わらないため、市に似たものが2つあっても仕方がない。客席の機能はいらない。
- ・市内に 800 席のホールと 300 席のホールがあるのだから、吹奏楽なども練習できる大～小の練習室（ピアノがあると良い）がほしい。（大 200 m<sup>2</sup>、中 100 m<sup>2</sup>、小 50 m<sup>2</sup>）
- ・「スカイプラザ浜大津」のような施設がよい。

「スカイプラザ浜大津」管楽器とオーケストラの団体ではほぼ毎晩埋まっており、登録団体は楽器を置けるスペースがある。  
利用時間は 8：30～23：00 30 分単位で借りられる。

#### ■美術協会との意見交換

- ・創作活動できる部屋（2～3 部屋）があり、子どもの絵画教室等（週 2 回程度）ができるとよい。
- ・創作活動の成果物を展示する会場がほしい。
- ・草津市美術展覧会等の会場として使用できる展示会場がほしい。（壁が移動式で仕切れ、ライトが天井から当てられることが望ましい）

### (2) 市民意識調査

- ・草津市民を対象に実施している「草津市のまちづくりについての市民意識調査」では、芸術文化機能の整備に係る要望等は、特にない。

## 参考資料－４ しが県民芸術創造館の管理運営費

### ■ 施設の概要

施設所在地	草津市野路六丁目15－11
開設年月日	昭和63年6月25日開館(旧草津文化芸術会館)、平成18年4月1日名称変更
敷地面積	10,262㎡
建築面積	3,530㎡ 鉄筋コンクリート造2階建
延床面積	3,985㎡
施設概要	ホール(704席+補助席91+車椅子席6)、展示ホール(324㎡)、練習室(3室)、和室(1室)、リハーサル室(159㎡)、事務室、駐車場ほか(リハーサル室は、平成20年4月1日設置)
設置目的	県民の文化の向上と芸術の振興を図ること

### ■ 創造館の実績

#### 1 収支の状況

※H18～22:収入・支出は2館一体管理のうち、創造館分について

単位:円

		H17年度決算	H18年度決算	H19年度決算	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算
収入	利用料金収入	7,385,900	32,720,218	37,392,387	36,094,763	38,172,251	37,236,564
	助成金等収入	1,451,400	10,831,000	8,622,880	8,324,000	6,439,000	11,360,374
	収入計	8,837,300	43,551,218	46,015,267	44,418,763	44,611,251	48,596,938
支出	事業費	23,040,873	79,958,904	78,457,828	65,686,321	65,307,403	64,357,408
	管理経費	28,369,155	27,077,887	32,397,169	22,812,107	21,838,983	21,537,068
	人件費	56,373,442	117,115,171	126,117,451	129,339,092	132,434,398	106,076,066
	支出計	107,783,470	224,151,962	236,972,448	217,837,520	219,580,784	191,970,542
しが県民芸術創造館収支差額		-98,946,170	-180,600,744	-190,957,181	-173,418,757	-174,969,533	-143,373,604
指定管理料(2館合計)		※ 98,946,170	405,801,562	405,881,439	387,632,980	387,239,838	367,278,009

※H17の指定管理料欄は、旧草津文芸会館への委託料、補助金の合計。H17の施設利用料金収入17,295,303円は県の歳入  
H18以降は、文化産業交流会館との2館一括での指定管理であり、指定管理料は2館合計の金額。

#### 2 人員配置

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
(各年度4月1日現在)	8人 OB:2名 プロパー:5名 嘱託:1名	14人 プロパー:11名 嘱託:3名	13人 プロパー:12名 嘱託:1名	14人 プロパー:12名 嘱託:2名	14人 プロパー:13名 嘱託:1名	14人 プロパー:11名 嘱託:3名

## 参考資料－５ 創造館、アミカホールの稼働率

表－しが県民芸術創造館の施設別目的別年間稼働率（平成 23 年度実績）

施設名	利用可能日	自主		貸館		合計	
		稼働日	稼働率	稼働日	稼働率	稼働日	稼働率
ホール	291 日	47 日	16.2%	160 日	55.0%	207 日	71.1%
展示ホール	304 日	69 日	22.7%	74 日	24.3%	143 日	47.0%
練習室 1	301 日	56 日	18.6%	154 日	51.2%	210 日	69.8%
練習室 2	299 日	53 日	17.7%	155 日	51.8%	208 日	69.6%
練習室 3	300 日	47 日	15.7%	160 日	53.3%	207 日	69.0%
和室	300 日	48 日	16.0%	73 日	24.3%	121 日	40.3%
リハーサル室	306 日	65 日	21.2%	140 日	45.8%	205 日	67.0%

表－アミカホールの施設別年間稼働率（平成 23 年度実績）

施設名	利用可能日	自主		貸館		合計	
		稼働日	稼働率	稼働日	稼働率	稼働日	稼働率
ホール	307 日	58 日	18.9%	145 日	47.2%	198 日	64.5%
リハーサル室	307 日	38 日	12.4%	201 日	65.5%	232 日	75.6%
文化教室 1	307 日	24 日	7.8%	210 日	68.4%	231 日	75.2%
文化教室 2	307 日	24 日	7.8%	132 日	43.0%	150 日	48.9%
研修室	307 日	35 日	11.4%	171 日	55.7%	198 日	64.5%

## 参考資料－6 ホールの稼働率に係る考察

社団法人全国公立文化施設協会が実施している「公立文化施設現況調査」では、全国の公立文化施設を対象とした、規模別ホール稼働率調査を行っている。

平成 17 年度の調査結果を見ると、**2,000 席以上の大規模施設の稼働率が比較的高い**傾向が窺える他、**しが県民芸術創造館(約 800 席)やアミカホール(約 300 席)と同規模のホールの稼働率は、概ね 50%～60%**となっている。

稼働率と施設の充足度に係る考察はないが、戦後 70 年が経過し、国民の生活が豊かになった我が国では、自己実現や趣味、余暇活動としての様々な文化芸術を享受できる環境にあり、市民の文化芸術ニーズに応じた**このような施設の整備は既に成熟した状況**にあるといえる。

今日的にも施設の老朽化や機能集約等に伴う施設の建て替えや更新はあるものの、絶対的な機能不足による施設整備は極めて少ない状況であると考えられる。

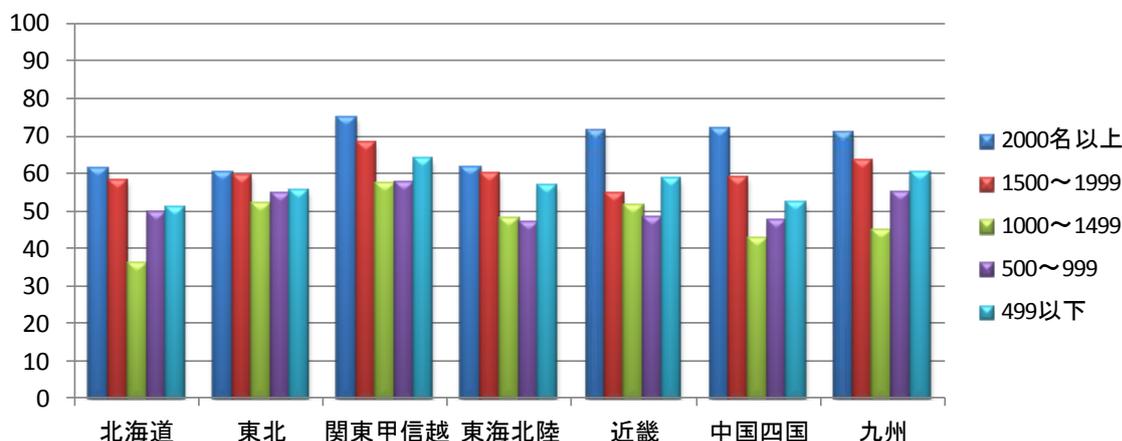
このような社会背景の中、本調査の結果を踏まえると **50%～70%の稼働状況であれば、市民の日常的利用に対し、不足は生じていない**と考えられる。

創造館のホールは、草津市への移管に伴う自主事業の減少を考慮すると稼働率は約 55%、アミカホールのホールも 64.5%の稼働率であり、いずれも全国平均と比較して大きく乖離している訳ではない。

このような状況から、草津市内におけるホール機能についても、絶対的な機能不足が生じているとは言えず、市民の日常的利用に対し問題はないと考えられる。

表一全国におけるホールの稼働率(H18年度) 上欄：ホール数 下欄：稼働率(%)

	合 計 平 均	北海道 地 区	東 北 地 区	関東甲 信越静 地 区	東 海 北 陸 地 区	近 畿 地 区	中 国 四 国 地 区	九 州 地 区
2000名～	52 67.5	3 61.3	5 60.4	17 75.0	7 61.8	8 71.4	7 71.6	5 70.8
1500～1999	110 60.3	4 57.9	11 59.6	35 68.1	16 59.9	14 54.5	13 58.8	17 63.3
1000～1499	369 47.4	13 36.1	47 51.9	136 57.3	50 47.8	43 51.6	32 42.5	48 44.6
500～999	550 51.4	20 49.6	59 54.6	150 57.8	81 47.2	74 48.5	74 47.3	92 55.1
499以下	679 56.8	30 51.0	71 55.5	214 63.7	92 56.9	116 58.4	67 52.2	89 60.2
全体の合計 平均	1,760 56.7	70 51.2	193 56.4	552 64.4	246 54.7	255 56.9	193 54.5	251 58.8



(資料 第8回公立文化施設現況調査 平成19年度)

